



狭あい道路を解消して 安全で住みやすいまちに

三宅和広 議員

「狭あい道路」とは4メートル未満の道で、建築基準法の規定により建築物の敷地の接道要件を満たす道とみなされた「みなし道路」が該当する。現在、市内には507カ所のみなし道路があるとのことであるが、他市町村では狭あい道路を解消

するために国の交付金を受け取るなどして積極的に解消を進めている。本市においても他市の状況なども参考に、狭あい道路の解消を積極的に進める必要があるのではないかと、**小笠原建設部長** 本市としても狭あい道路解消のため

に、道路整備計画に基づき市道の拡幅改良を進めている。しかし、市道以外のみなし道路についてはなかなか進まない状況である。今後、他市の状況なども調査していきたい。また、交付金の活用についても県と協議していきたい。

子どもの生活実態 調査の結果の活用を

昨年、県は子どもの貧困の実態を知るために生活実

態調査を実施し、この調査結果の概要版が発表された。効果的な子育て支援をするために調査結果を施策に活かしていく必要がある。本市では今後どのように取り組む予定か。

山本市長 本市ではこれまで18歳までの子どもの医療費の無料化やひとり親家庭への学習支援事業などを他市に先駆けて実施した。今回の結果からそれらの施策が子育て世代のニーズに

あったものと改めて認識した。詳細な調査結果が公表されるが、その結果を十分に検討・分析し、子どもの貧困対策など子育て支援の施策の参考にしていきたい。

いわゆる「貧困世帯」が充実を望む支援制度は何か。

進学のための奨学金等の充実
52.9%

無料又は低額の子どもの学習支援充実
33.9%

山形県子どもの生活実態調査の結果【概要版】(平成30年11月)より